奈良工業高等専門学校	グローバル工学協働教育プログラム(GECEP)（ベーシックコース）	開講年度	令和05年度 (2023年度)

学科到達目標

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0001	履修単位	1	1	1																	朴 槿英	
一般	選択	異文化交流Ⅰ	0002	履修単位	1	集中講義																		朴 槿英	
一般	選択	海外協働研修Ⅰ	0003	履修単位	1	集中講義																		稲田 直久,朴 槿英	
一般	選択	グローバルチャレンジ	0004	履修単位	1	集中講義																		朴 槿英	
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0005	履修単位	1					1	1													朴 槿英	
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0006	履修単位	1					1	1													朴 槿英	
一般	選択	異文化交流Ⅱ	0007	履修単位	1					集中講義														朴 槿英	
一般	選択	海外協働研修Ⅱ	0008	履修単位	1					集中講義														稲田 直久,朴 槿英	
一般	選択	グローバルチャレンジ	0009	履修単位	1					集中講義														朴 槿英	
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0010	履修単位	1									1	1									朴 槿英	
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0011	履修単位	1									1	1									朴 槿英	
一般	選択	グローバルコミュニケーション	0012	履修単位	1									2										朴 槿英	
一般	選択	異文化交流Ⅲ	0013	履修単位	1									集中講義										朴 槿英	
一般	選択	海外協働研修Ⅲ	0014	履修単位	1									集中講義										稲田 直久,朴 槿英	
一般	選択	グローバルチャレンジ	0015	履修単位	1									集中講義										朴 槿英	
一般	選択	グローバルエンジニアスキル	0016	履修単位	1									2										Leigh McDowell	
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0017	履修単位	1													1	1					朴 槿英	
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0018	履修単位	1													1	1					朴 槿英	
一般	選択	グローバルコミュニケーション	0019	履修単位	1													2						朴 槿英	
一般	選択	異文化交流Ⅳ	0020	履修単位	1													集中講義						朴 槿英	
一般	選択	海外協働研修Ⅳ	0021	履修単位	1													集中講義						稲田 直久,朴 槿英	
一般	選択	グローバルチャレンジ	0022	履修単位	1													集中講義						朴 槿英	
一般	選択	グローバルエンジニアスキル	0023	履修単位	1													2						Leigh McDowell	
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0024	履修単位	1																	1	1	朴 槿英	
一般	選択	グローバルコミュニケーション	0025	履修単位	1																	2		朴 槿英	
一般	選択	異文化交流Ⅴ	0026	履修単位	1																	集中講義		朴 槿英	
一般	選択	海外協働研修Ⅴ	0027	履修単位	1																	集中講義		稲田 直久,朴 槿英	
一般	選択	グローバルチャレンジ	0028	履修単位	1																	集中講義		朴 槿英	
一般	選択	グローバルエンジニアスキル	0029	履修単位	1																	2		Leigh McDowell	

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語アクティブラーニングⅠ

科目基礎情報

科目番号	0001	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、アクティブラーニング学習向けに開発されたOriginal Handoutsなどを教材として、期間内に指定分量の資格試験受験対策の自学自習を積極的に行う。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定のレベル（英語検定試験準 2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達することを目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目 1	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策が充分にできる。	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策ができる。	自学自習を行ったものの、指定分量の資格試験対策の学習ができない。
評価項目 2	資格試験で想定レベルを上回る水準に到達することができる。	資格試験で想定のレベルに到達できる。	資格試験で想定のレベルに到達できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件(告示)」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていない TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、指定のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。
注意点	英語アクティブラーニングⅠの単位を取得した次の年度から、英語アクティブラーニングⅡの履修申請ができる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅡ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験準 2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達すること。想定のレベルに到達した後には、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時にグローバル工学協働教育プログラム (GECEP) ベーシックコース履修中であることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年１月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、１月に入って掲示板を確認すること。 ・学習内容について想定テストを受験する。申請用紙に添えてに提出すること。 ・英語資格試験成績証明書を含め、提出された総合評価が80%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定のレベルに到達する。 ・英語検定試験準 2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	異文化交流 I

科目基礎情報

科目番号	0002	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	1
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	「CLIL Seeing the World through Maps : CLIL 英 語と地図で学ぶ世界事情」, 三修社, 笹島 茂 他 著		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

１．文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。
２．本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。	異文化理解に対して高い意識をもっている。	異文化理解に対する意識が不十分である。
グローバル・コミュニケーション力	異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	異文化理解に関する３つの構成要素（①態度、②知識、③技能）を理解した上で、海外学生との交流プログラムに参加し、日本文化、学校等の紹介並びに海外学生とのコミュニケーションを通してグルーバル感覚を身につける。
授業の進め方・方法	講義により、「異文化理解」における３つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、実際に海外学生との交流プログラムにおける学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して得られた知見をポスターにまとめる。
注意点	異文化理解に対するオープンマインド、そして実践的な理文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 学習指針 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」,「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習としては、異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習としては、各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

後期	3rdQ	1週	１．準備活動 　異文化理解に関するイマ−ジョンプログラム(リーディングマラソン)に積極的に参加する。 ２．海外からの短期訪問(国際交流プログラム)の受入準備のための活動 　学校・文化紹介用のPPT作成、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、香港・シンガポール学生の受入準備活動を行う。 ３．香港・シンガポール人学生受入活動への参加 ４．報告会開催に向けた準備活動 　全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 ５．国際交流プログラム参加報告会の実施	１．文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 ２．本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	課題提出	英語プレゼンテーション	実践活動	合計
総合評価割合	50	20	30	100
基礎的能力	50	20	30	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	海外協働研修 I

科目基礎情報

科目番号	0003	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	1
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している，国際交流等の報告発表会などが参考となる。		
担当教員	稲田 直久,朴 槿英		

到達目標

・英語による学問的ディスカッションスキルを深めるとともに，外国との文化や価値観について自ら調査し，日本文化との違いについて英語で発表できる。
・母語以外の外国語によるウェビナーなどに参加し、英語プレゼンテーションおよび質疑応答を行うことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め、自国の文化についても紹介ができる。	異文化に対する理解がある。自国の文化について、簡単な外国語で紹介ができる。	異文化に対する理解が不十分で、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。自国の文化について、紹介できない。
評価項目2	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。	外国語によるコミュニケーションを図ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	海外の教育機関への語学留学，短期・長期の海外研修，国際交流・フォーラム・学会・展示会などのプログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに，グローバルマインドの育成，異文化に対する理解力の向上，外国語学習への意欲を高めることを目的とする。
授業の進め方・方法	本校や本校か認めた海外の機関が実施する国際交流プログラムの他，様々なインターナショナル・プログラムなどにおいて，アクティブな実践活動を行う。 なお，各自がプログラムの活動目標を設定し，積極的な態度で臨む必要がある。
注意点	海外協定校や学校が認める海外機関との国際交流・フォーラム・セミナー・学会・展示会などで活動する事前準備（活動のために必要な外国語運用能力およびグローバルなマインド、国際文化に対する基本的な教養を身に備えるなど、積極的な準備活動が必要である。） 学習指針：研修先の参加者と積極的に交流し，工学・技術の分野だけでなく，文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習としては、外国語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング、スピーキング練習をすること。国際文化に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては、活動を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 学校に認められた期間 2. 実施期間 合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる （研修先の文化に触れ，日本語以外の言語による交流や学習がなされること） 4. 研修先 学校が認めた研修先 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」（所定の様式）をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後，速やかに 「研修等終了報告書」（様式任意） 「プログラム・要項」等，研修内容等が記された書類 「プログラム修了証書」など、関連書類を提出する。 研修報告会（12月頃予定）において研修成果を発表する。	・英語による学問的ディスカッションスキルを深めるとともに，外国との文化や価値観について自ら調査し，日本文化との違いについて英語で発表できる。 ・英語によるウェビナーなどに参加し、英語プレゼンテーションおよび質疑応答を行うことができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	報告書	報告会での発表	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	グローバルチャレンジ

科目基礎情報

科目番号	0004	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	1
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	「CLIL SDGs―Sustainable Development Goals CLIL英語で考えるSDGs―持続可能な開発目標」、三修社、笹島茂他 著		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

1. 国連が提唱する持続可能な開発目標 SDGs の Contents について英語で考えることができる。
2. 地球規模の多様な問題について学び，考え（Cognition），互いの意見を英語で表現（Short Speech & Presentation）できる。特別講演および オールイングリッシュ講義を通じて、国際社会を舞台に活躍できるグローバルマインドの育成や実践的英語コミュニケーションスキルを身に着けることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
グローバルコミュニケーションスキル	生英語を聞き取り、内容を良く理解することができる。	生英語を聞き取り、内容を概ね理解することができる。	生英語を聞き取れず、内容を理解することができない。
ディスカッションスキル	国際問題について高い意識をもつとともに、その内容について深くディスカッションすることができる。	国際問題について高い意識をもつとともに、その内容について概ねディスカッションすることができる。	国際問題に関する意識が不十分であり、その内容についてディスカッションすることができない。
ショートスピーチ&プレゼンテーションスキル	流暢な英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできる。	分かる程度の英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできる。	英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	CLIL(Content and Language Integrated Learning）とは、伝えたい内容と言語教育を融合した学習法である。SDGsについて、オールイングリッシュ講義を通じて学び、考え、英語で発表を行うことで、国際舞台で活躍できる実践的英語コミュニケーションスキル、地球規模の問題意識およびグローバルマインドを養うことができる。なお、グローバル教育センターが主催する特別イベント（特別講演会、海外協働研修研修報告会など）に必ず参加し、グローバルエンジニアとして必要な知識とスキルを身に着ける。
授業の進め方・方法	SDGs の内容を英語で理解し、考え、コミュニケーションできるよう、オールイングリッシュ講義を行う。各講義、特別講演会、海外協働研修報告会の他、英語コミュニケーション集中講義等へ積極的に参加し、学習内容についてアンケートおよび英文レポートを作成し、英語でショートスピーチやプレゼンテーションを行う。
注意点	関連科目：英語科目のみならず、世界の現代社会全般について幅広い関心を持つことが求められる。 学習指針：基礎的な英語コミュニケーション能力と、グローバル社会の課題に関する学ぶ積極的な学習態度が必要となる。 地球規模の課題に対する文献を事前調査するなど、積極的な取り組みが求められる。 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」,「話す」練習を随時行うこと。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：オールイングリッシュ講義やイベントに参加するための基礎知識を事前に習得すること。英語コミュニケーションの練習、発音練習を随時行うこと。 事後展開学習：各講演やイベントを通じて学んだ内容を将来の活動に積極的に活用すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	集中講義（以下のイベント内容参照） イベントの開催情報についてはGECEP Teams掲示板に随時掲載されるので、履修学生は定期的に掲示板を確認すること。 単位認定に関して グローバル教育センター主催イベントへの参加とコメントカードの提出、および報告書の提出をもって単位認定を行う。	各イベントに伴う内容を理解し、実用的な英語表現の練習および英文レポートを作成することができる。 英語による講演内容を概ね理解し、自身の考えや質問を英語で表現することを学ぶことができる。 現代社会の課題について幅広い事前調査をすることができる。
		2週	Challenge 1 Guidance / Industry, Innovation and Infrastructure	産業と技術革新の基盤について学び、考え、質問に答えることができる。
		3週	Challenge 2 Sustainable Cities and Communities	住み続けられるまちづくりについて学び、考え、質問に答えることができる。
		4週	Challenge 3 Responsible Consumption and Production	つくる責任、つかう責任について学び、考え、質問に答えることができる。
		5週	Challenge 4 Climate Action	気候変動に具体的な対策について学び、考え、質問に答えることができる。
		6週	Challenge 5 Life below Water / Life on Land	海の豊かさを守ること・陸の豊かさも守ることについて学び、考え、質問に答えることができる。
		7週	Challenge 6 Peace, Justice and Strong Institutions	平和と公正を全ての人に与えることについて学び、考え、質問に答えることができる。
		8週	Challenge 7 Partnerships for the Goals	パートナーシップで目標を達成することについて、考え、質問に答えることができる。
	2ndQ	9週	Intensive English Communication Training ①	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。

		10週	オンライン国際交流プログラム（ウェビナー）	海外学術交流校とのオンライン国際交流活動に参加することができる。
		11週	グローバルチャレンジイベント特別講演会	グローバルな活動を通じて学んだ知識と経験を共有することができる。
		12週	国際プログラム参加成果報告会	特別講演会に参加し、アンケートおよびコメントカードを作成することができる。
		13週	Intensive English Communication Training ②	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。
		14週	Intensive English Communication Training ③	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。
		15週	STEAM English 特別イベント	STEAMに特化した英語講演を通じてSTEAMに関する理解を高めることができる。
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	チャレンジレポート		合計
総合評価割合	100	0	100
基礎的能力	100	0	100
総合的能力	0	0	0

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語アクティブラーニングⅠ

科目基礎情報

科目番号	0005	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、アクティブラーニング学習向けに開発されたOriginal Handoutsなどを教材として、期間内に指定分量の資格試験受験対策の自学自習を積極的に行う。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定のレベル（英語検定試験準 2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達することを目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目 1	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策が充分にできる。	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策ができる。	自学自習を行ったものの、指定分量の資格試験対策の学習ができない。
評価項目 2	資格試験で想定レベルを上回る水準に到達することができる。	資格試験で想定のレベルに到達できる。	資格試験で想定のレベルに到達できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件(告示)」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていない TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、指定のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。
注意点	英語アクティブラーニングⅠの単位を取得した次の年度から、英語アクティブラーニングⅡの履修申請ができる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅡ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験準 2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達すること。想定のレベルに到達した後には、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時にグローバル工学協働教育プログラム (GECEP) ベーシックコース履修中であることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年１月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、１月に入って掲示板を確認すること。 ・学習内容について想定テストを受験する。申請用紙に添えてに提出すること。 ・英語資格試験成績証明書を含め、提出された総合評価が80%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定のレベルに到達する。 ・英語検定試験準 2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語アクティブラーニングⅡ

科目基礎情報

科目番号	0006	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、アクティブラーニング学習向けに開発されたOriginal Handoutsなどを教材として、期間内に指定分量の資格試験受験対策の自学自習を積極的に行う。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定のレベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達することを目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目 1	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策が充分にできる。	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策ができる。	自学自習を行ったものの、指定分量の資格試験対策の学習ができない。
評価項目 2	資格試験で想定レベルを上回る水準に到達することができる。	資格試験で想定のレベルに到達できる。	資格試験で想定のレベルに到達できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件(告示)」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていない TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。
注意点	英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅠ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達すること。想定のレベルに到達した後には、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年１月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、１月に入って掲示板を確認すること。 ・学習内容について想定テストを受験する。申請用紙に添えてに提出すること。 ・英語資格試験成績証明書を含め、提出された総合評価が80%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定の英語資格試験対策の効率的な学習をすることができる。 ・英語資格試験を受験し、想定のレベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		

		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	異文化交流Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0007	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	2
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

１．文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。
２．本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。	異文化理解に対して高い意識をもっている。	異文化理解に対する意識が不十分である。
グローバル・コミュニケーション力	異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	異文化理解に関する３つの構成要素（①態度、②知識、③技能）を理解した上で、海外学生との交流プログラムに参加し、日本文化、学校等の紹介並びに海外学生とのコミュニケーションを通してグルーバル感覚を身につける。
授業の進め方・方法	講義により、「異文化理解」における３つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、実際に海外学生との交流プログラムにおける学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して得られた知見をポスターにまとめる。
注意点	異文化理解に対するオープンマインド、そして実践的な理文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 学習指針 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」,「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習としては、異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習としては、各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

後期	3rdQ	1週	１．準備活動 　異文化理解に関するイマ−ジョンプログラム(リーディングマラソン)に積極的に参加する。 ２．海外からの短期訪問(国際交流プログラム)の受入準備のための活動 　学校・文化紹介用のPPT作成、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、香港・シンガポール学生の受入準備活動を行う。 ３．香港・シンガポール人学生受入活動への参加 ４．報告会開催に向けた準備活動 　全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 ５．国際交流プログラム参加報告会の実施	１．文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 ２．本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	課題提出	英語プレゼンテーション	実践活動	合計
総合評価割合	30	30	40	100
基礎的能力	30	30	40	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	海外協働研修Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0008	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	2
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している，国際交流等の報告発表会などが参考となる。		
担当教員	稲田 直久,朴 槿英		

到達目標

・英語による学問的ディスカッションスキルを深めるとともに，外国との文化や価値観について自ら調査し，日本文化との違いについて英語で発表できる。
・母語以外の外国語によるウェビナーなどに参加し、英語プレゼンテーションおよび質疑応答を行うことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め、自国の文化についても紹介ができる。	異文化に対する理解がある。自国の文化について、簡単な外国語で紹介ができる。	異文化に対する理解が不十分で、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。自国の文化について、紹介できない。
評価項目2	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。	外国語によるコミュニケーションを図ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	海外の教育機関への語学留学，短期・長期の海外研修，国際交流・フォーラム・学会・展示会などのプログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに，グローバルマインドの育成，異文化に対する理解力の向上，外国語学習への意欲を高めることを目的とする。
授業の進め方・方法	本校や本校か認めた海外の機関が実施する国際交流プログラムの他，様々なインターナショナル・プログラムなどにおいて，アクティブな実践活動を行う。 なお，各自がプログラムの活動目標を設定し，積極的な態度で臨む必要がある。
注意点	海外協定校や学校が認める海外機関との国際交流・フォーラム・セミナー・学会・展示会などで活動する事前準備（活動のために必要な外国語運用能力およびグローバルなマインド、国際文化に対する基本的な教養を身に備えるなど、積極的な準備活動が必要である。） 学習指針：研修先の参加者と積極的に交流し，工学・技術の分野だけでなく，文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習としては、外国語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング、スピーキング練習をすること。国際文化に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては、活動を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 学校に認められた期間 2. 実施期間 合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる （研修先の文化に触れ，日本語以外の言語による交流や学習がなされること） 4. 研修先 学校が認めた研修先 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」（所定の様式）をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後，速やかに 「研修等終了報告書」（様式任意） 「プログラム・要項」等，研修内容等が記された書類 「プログラム修了証書」など、関連書類を提出する。 研修報告会（12月頃予定）において研修成果を発表する。	・英語による学問的ディスカッションスキルを深めるとともに，外国との文化や価値観について自ら調査し，日本文化との違いについて英語で発表できる。 ・英語によるウェビナーなどに参加し、英語プレゼンテーションおよび質疑応答を行うことができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	報告書	報告会での発表	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	グローバルチャレンジ

科目基礎情報

科目番号	0009	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	2
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	「CLIL SDGs―Sustainable Development Goals CLIL英語で考えるSDGs―持続可能な開発目標」、三修社、笹島茂他 著		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

1. 国連が提唱する持続可能な開発目標 SDGs の Contents について英語で考えることができる。
2. 地球規模の多様な問題について学び，考え（Cognition），互いの意見を英語で表現（Short Speech & Presentation）できる。特別講演および オールイングリッシュ講義を通じて、国際社会を舞台に活躍できるグローバルマインドの育成や実践的英語コミュニケーションスキルを身に着けることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
グローバルコミュニケーションスキル	生英語を聞き取り、内容を良く理解することができる。	生英語を聞き取り、内容を概ね理解することができる。	生英語を聞き取れず、内容を理解することができない。
ディスカッションスキル	国際問題について高い意識をもつとともに、その内容について深くディスカッションすることができる。	国際問題について高い意識をもつとともに、その内容について概ねディスカッションすることができる。	国際問題に関する意識が不十分であり、その内容についてディスカッションすることができない。
ショートスピーチ&プレゼンテーションスキル	流暢な英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできる。	分かる程度の英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできる。	英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	CLIL(Content and Language Integrated Learning）とは、伝えたい内容と言語教育を融合した学習法である。SDGsについて、オールイングリッシュ講義を通じて学び、考え、英語で発表を行うことで、国際舞台で活躍できる実践的英語コミュニケーションスキル、地球規模の問題意識およびグローバルマインドを養うことができる。なお、グローバル教育センターが主催する特別イベント（特別講演会、海外協働研修研修報告会など）に必ず参加し、グローバルエンジニアとして必要な知識とスキルを身に着ける。
授業の進め方・方法	SDGs の内容を英語で理解し、考え、コミュニケーションできるよう、オールイングリッシュ講義を行う。各講義、特別講演会、海外協働研修報告会の他、英語コミュニケーション集中講義等へ積極的に参加し、学習内容についてアンケートおよび英文レポートを作成し、英語でショートスピーチやプレゼンテーションを行う。
注意点	関連科目：英語科目のみならず、世界の現代社会全般について幅広い関心を持つことが求められる。 学習指針：基礎的な英語コミュニケーション能力と、グローバル社会の課題に関する学ぶ積極的な学習態度が必要となる。 地球規模の課題に対する文献を事前調査するなど、積極的な取り組みが求められる。 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」,「話す」練習を随時行うこと。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：オールイングリッシュ講義やイベントに参加するための基礎知識を事前に習得すること。英語コミュニケーションの練習、発音練習を随時行うこと。 事後展開学習：各講演やイベントを通じて学んだ内容を将来の活動に積極的に活用すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	集中講義（以下のイベント内容参照） イベントの開催情報についてはGECEP Teams掲示板に随時掲載されるので、履修学生は定期的に掲示板を確認すること。 単位認定に関して グローバル教育センター主催イベントへの参加とコメントカードの提出、および報告書の提出をもって単位認定を行う。	各イベントに伴う内容を理解し、実用的な英語表現の練習および英文レポートを作成することができる。 英語による講演内容を概ね理解し、自身の考えや質問を英語で表現することを学ぶことができる。 現代社会の課題について幅広い事前調査をすることができる。
		2週	Challenge 1 Guidance / Industry, Innovation and Infrastructure	産業と技術革新の基盤について学び、考え、質問に答えることができる。
		3週	Challenge 2 Sustainable Cities and Communities	住み続けられるまちづくりについて学び、考え、質問に答えることができる。
		4週	Challenge 3 Responsible Consumption and Production	つくる責任、つかう責任について学び、考え、質問に答えることができる。
		5週	Challenge 4 Climate Action	気候変動に具体的な対策について学び、考え、質問に答えることができる。
		6週	Challenge 5 Life below Water / Life on Land	海の豊かさを守ること・陸の豊かさも守ることについて学び、考え、質問に答えることができる。
		7週	Challenge 6 Peace, Justice and Strong Institutions	平和と公正を全ての人に与えることについて学び、考え、質問に答えることができる。
		8週	Challenge 7 Partnerships for the Goals	パートナーシップで目標を達成することについて、考え、質問に答えることができる。
	2ndQ	9週	Intensive English Communication Training ①	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。

		10週	オンライン国際交流プログラム（ウェビナー）	海外学術交流校とのオンライン国際交流活動に参加することができる。
		11週	グローバルチャレンジイベント特別講演会	グローバルな活動を通じて学んだ知識と経験を共有することができる。
		12週	国際プログラム参加成果報告会	特別講演会に参加し、アンケートおよびコメントカードを作成することができる。
		13週	Intensive English Communication Training ②	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。
		14週	Intensive English Communication Training ③	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。
		15週	STEAM English 特別イベント	STEAMに特化した英語講演を通じてSTEAMに関する理解を高めることができる。
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	チャレンジレポート		合計
総合評価割合	100	0	100
基礎的能力	100	0	100
総合的能力	0	0	0

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語アクティブラーニングⅠ

科目基礎情報

科目番号	0010	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、アクティブラーニング学習向けに開発されたOriginal Handoutsなどを教材として、期間内に指定分量の資格試験受験対策の自学自習を積極的に行う。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定のレベル（英語検定試験準 2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達することを目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目 1	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策が充分にできる。	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策ができる。	自学自習を行ったものの、指定分量の資格試験対策の学習ができない。
評価項目 2	資格試験で想定レベルを上回る水準に到達することができる。	資格試験で想定のレベルに到達できる。	資格試験で想定のレベルに到達できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件(告示)」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていない TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、指定のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。
注意点	英語アクティブラーニングⅠの単位を取得した次の年度から、英語アクティブラーニングⅡの履修申請ができる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅡ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験準 2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達すること。想定のレベルに到達した後には、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時にグローバル工学協働教育プログラム (GECEP) ベーシックコース履修中であることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年１月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、１月に入って掲示板を確認すること。 ・学習内容について想定テストを受験する。申請用紙に添えてに提出すること。 ・英語資格試験成績証明書を含め、提出された総合評価が80%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定のレベルに到達する。 ・英語検定試験準 2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語アクティブラーニングⅡ

科目基礎情報

科目番号	0011	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、アクティブラーニング学習向けに開発されたOriginal Handoutsなどを教材として、期間内に指定分量の資格試験受験対策の自学自習を積極的に行う。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定のレベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達することを目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目１	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策が充分にできる。	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策ができる。	自学自習を行ったものの、指定分量の資格試験対策の学習ができない。
評価項目２	資格試験で想定レベルを上回る水準に到達することができる。	資格試験で想定のレベルに到達できる。	資格試験で想定のレベルに到達できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件(告示)」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていない TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。
注意点	英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅠ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達すること。想定のレベルに到達した後には、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年１月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、１月に入って掲示板を確認すること。 ・学習内容について想定テストを受験する。申請用紙に添えてに提出すること。 ・英語資格試験成績証明書を含め、提出された総合評価が80%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定の英語資格試験対策の効率的な学習をすることができる。 ・英語資格試験を受験し、想定のレベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		

		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	グローバルコミュニケーション

科目基礎情報

科目番号	0012	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)	対象学年	3
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

This lecture aims to encourage students to express their thoughts related to various social issues as well as to develop listening, speaking, reading, and writing skills needed to discuss in English fluently.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
リスニング能力	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができる。	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、おおむね理解することができる。	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができない。
スピーキング能力	英語ニュースを聞き、内容について的確に話すことができる。	英語ニュースを聞き、内容についておおむね話すことができる。	英語ニュースを聞き、内容について的確に話すことができない。
リーディング能力	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができる。	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問におおむね回答することができる。	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができない。
ライティング能力	英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができる。	英文記事に関連する社会問題についておおむね英作文することができる。	英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	This lecture serves as an practical communicative classes for students to develop English language skills needed to discuss social issues by using audiovisual materials. At the beginning of each class, a special dictation practice is served.
授業の進め方・方法	The classes are basically in person with some dictation and reading comprehension practices, requiring 2/3 attention at weekly assignment tests. The contents and schedule are as shown below.
注意点	Students are required to review for the assigned part of handouts for each class, and to practice short essay writing about current social issues.

学修単位の履修上の注意

事前学習：英単語調べはもちろん、各章の問題を「提出用ノート」に解答しておき、充実させたノートを提出できるようにしておく。
事後展開学習：授業中に作成した「板書用ノート」をみながら、復習し、クイズやテストに備える。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Class Introduction	To understand what and how to learn communicative English
		2週	World News Ⅰ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		3週	World News Ⅱ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		4週	World News Ⅲ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		5週	World News Ⅳ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		6週	World News Ⅴ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		7週	World News Ⅵ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		8週	World News Ⅶ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
	2ndQ	9週	World News Ⅷ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		10週	World News Ⅸ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		11週	World News Ⅹ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		12週	Essay Writing & Discussion	To be assessed each level of understanding
		13週	How to express each point of views about social issues	To understand the typical patterns of essay writing
		14週	Final Assignment Test	To be assessed each level of writing
		15週	Final Essay Writing	To be assessed each level of speaking
		16週	Review	Finalizing & Evaluations

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	Weekly Assignment	Essay Writing	Class Participation	合計
総合評価割合	60	30	10	100
基礎的能力	60	0	10	70
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	30	0	30

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	異文化交流Ⅲ

科目基礎情報

科目番号	0013	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	3
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

１．文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。
２．本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。	異文化理解に対して高い意識をもっている。	異文化理解に対する意識が不十分である。
グローバル・コミュニケーション力	異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	異文化理解に関する３つの構成要素（①態度、②知識、③技能）を理解した上で、海外学生との交流プログラムに参加し、日本文化、学校等の紹介並びに海外学生とのコミュニケーションを通してグルーバル感覚を身につける。
授業の進め方・方法	講義により、「異文化理解」における３つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、実際に海外学生との交流プログラムにおける学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して得られた知見をポスターにまとめる。
注意点	異文化理解に対するオープンマインド、そして実践的な理文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 学習指針 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」,「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習としては、異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習としては、各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

後期	3rdQ	1週	１．準備活動 　異文化理解に関するイマ−ジョンプログラム(リーディングマラソン)に積極的に参加する。 ２．海外からの短期訪問(国際交流プログラム)の受入準備のための活動 　学校・文化紹介用のPPT作成、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、香港・シンガポール学生の受入準備活動を行う。 ３．香港・シンガポール人学生受入活動への参加 ４．報告会開催に向けた準備活動 　全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 ５．国際交流プログラム参加報告会の実施	１．文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 ２．本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	課題提出	英語プレゼンテーション	実践活動	合計
総合評価割合	30	30	40	100
基礎的能力	30	30	40	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	海外協働研修Ⅲ

科目基礎情報

科目番号	0014	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	3
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している国際交流の発表会などが参考となる。		
担当教員	稲田 直久,朴 槿英		

到達目標

・異文化に対する理解を深めるとともに，他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め，自国の文化についても紹介ができる。
・母語以外の外国語によるコミュニケーションを図ることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め、自国の文化についても紹介ができる。	異文化に対する理解がある。 自国の文化について、簡単な外国語で紹介ができる。	異文化に対する理解が不十分で、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。 自国の文化について、紹介できない。
評価項目2	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。	外国語によるコミュニケーションを図ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	海外の教育機関への語学留学，短期・長期の海外研修，国際交流・フォーラム・学会・展示会などのプログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに，グローバルマインドの育成，異文化に対する理解力の向上，外国語学習への意欲を高めることを目的とする。
授業の進め方・方法	本校や本校か認めた海外の機関が実施する国際交流プログラムの他，様々なインターナショナル・プログラムなどにおいて，アクティブな実践活動を行う。 なお，各自がプログラムの活動目標を設定し，積極的な態度で臨む必要がある。
注意点	海外協定校や学校が認める海外機関との国際交流・フォーラム・セミナー・学会・展示会などで活動する事前準備（活動のために必要な外国語運用能力およびグローバルなマインド、国際文化に対する基本的な教養を身に備えるなど、積極的な準備活動が必要である。） 学習指針：研修先の参加者と積極的に交流し，工学・技術の分野だけでなく，文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習としては、外国語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング、スピーキング練習をすること。国際文化に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては、活動を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 学校に認められた期間 2. 実施期間 合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる （研修先の文化に触れ，日本語以外の言語による交流がなされること） 4. 研修先 学校が認めた研修先 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」（所定の様式）をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後，速やかに 「研修等終了報告書」（様式任意） 「プログラム・要項」等，研修内容等が記された書類 「プログラム修了証書」など、関連書類を提出する。 研修報告会（12月頃予定）において研修成果を発表する。	・異文化に対する理解を深めるとともに，他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め，自国の文化についても紹介ができる ・外国語によるコミュニケーションを図ることができる
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	報告書	報告会での発表	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	グローバルチャレンジ

科目基礎情報

科目番号	0015	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	3
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	「CLIL SDGs―Sustainable Development Goals CLIL英語で考えるSDGs―持続可能な開発目標」、三修社、笹島茂他 著		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

1. 国連が提唱する持続可能な開発目標 SDGs の Contents について英語で考えることができる。
2. 地球規模の多様な問題について学び，考え（Cognition），互いの意見を英語で表現（Short Speech & Presentation）できる。特別講演および オールイングリッシュ講義を通じて、国際社会を舞台に活躍できるグローバルマインドの育成や実践的英語コミュニケーションスキルを身に着けることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
グローバルコミュニケーションスキル	生英語を聞き取り、内容を良く理解することができる。	生英語を聞き取り、内容を概ね理解することができる。	生英語を聞き取れず、内容を理解することができない。
ディスカッションスキル	国際問題について高い意識をもつとともに、その内容について深くディスカッションすることができる。	国際問題について高い意識をもつとともに、その内容について概ねディスカッションすることができる。	国際問題に関する意識が不十分であり、その内容についてディスカッションすることができない。
ショートスピーチ&プレゼンテーションスキル	流暢な英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできる。	分かる程度の英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできる。	英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	CLIL(Content and Language Integrated Learning）とは、伝えたい内容と言語教育を融合した学習法である。SDGsについて、オールイングリッシュ講義を通じて学び、考え、英語で発表を行うことで、国際舞台で活躍できる実践的英語コミュニケーションスキル、地球規模の問題意識およびグローバルマインドを養うことができる。なお、グローバル教育センターが主催する特別イベント（特別講演会、海外協働研修研修報告会など）に必ず参加し、グローバルエンジニアとして必要な知識とスキルを身に着ける。
授業の進め方・方法	SDGs の内容を英語で理解し、考え、コミュニケーションできるよう、オールイングリッシュ講義を行う。各講義、特別講演会、海外協働研修報告会の他、英語コミュニケーション集中講義等へ積極的に参加し、学習内容についてアンケートおよび英文レポートを作成し、英語でショートスピーチやプレゼンテーションを行う。
注意点	関連科目：英語科目のみならず、世界の現代社会全般について幅広い関心を持つことが求められる。 学習指針：基礎的な英語コミュニケーション能力と、グローバル社会の課題に関する学ぶ積極的な学習態度が必要となる。 地球規模の課題に対する文献を事前調査するなど、積極的な取り組みが求められる。 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」,「話す」練習を随時行うこと。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：オールイングリッシュ講義やイベントに参加するための基礎知識を事前に習得すること。英語コミュニケーションの練習、発音練習を随時行うこと。 事後展開学習：各講演やイベントを通じて学んだ内容を将来の活動に積極的に活用すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	集中講義（以下のイベント内容参照） イベントの開催情報についてはGECEP Teams掲示板に随時掲載されるので、履修学生は定期的に掲示板を確認すること。 単位認定に関して グローバル教育センター主催イベントへの参加とコメントカードの提出、および報告書の提出をもって単位認定を行う。	各イベントに伴う内容を理解し、実用的な英語表現の練習および英文レポートを作成することができる。 英語による講演内容を概ね理解し、自身の考えや質問を英語で表現することを学ぶことができる。 現代社会の課題について幅広い事前調査をすることができる。
		2週	Challenge 1 Guidance / Industry, Innovation and Infrastructure	産業と技術革新の基盤について学び、考え、質問に答えることができる。
		3週	Challenge 2 Sustainable Cities and Communities	住み続けられるまちづくりについて学び、考え、質問に答えることができる。
		4週	Challenge 3 Responsible Consumption and Production	つくる責任、つかう責任について学び、考え、質問に答えることができる。
		5週	Challenge 4 Climate Action	気候変動に具体的な対策について学び、考え、質問に答えることができる。
		6週	Challenge 5 Life below Water / Life on Land	海の豊かさを守ること・陸の豊かさも守ることについて学び、考え、質問に答えることができる。
		7週	Challenge 6 Peace, Justice and Strong Institutions	平和と公正を全ての人に与えることについて学び、考え、質問に答えることができる。
		8週	Challenge 7 Partnerships for the Goals	パートナーシップで目標を達成することについて、考え、質問に答えることができる。
	2ndQ	9週	Intensive English Communication Training ①	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。

		10週	オンライン国際交流プログラム（ウェビナー）	海外学術交流校とのオンライン国際交流活動に参加することができる。
		11週	グローバルチャレンジイベント特別講演会	グローバルな活動を通じて学んだ知識と経験を共有することができる。
		12週	国際プログラム参加成果報告会	特別講演会に参加し、アンケートおよびコメントカードを作成することができる。
		13週	Intensive English Communication Training ②	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。
		14週	Intensive English Communication Training ③	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。
		15週	STEAM English 特別イベント	STEAMに特化した英語講演を通じてSTEAMに関する理解を高めることができる。
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	チャレンジレポート		合計
総合評価割合	100	0	100
基礎的能力	100	0	100
総合的能力	0	0	0

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語アクティブラーニングⅠ

科目基礎情報

科目番号	0017	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、アクティブラーニング学習向けに開発されたOriginal Handoutsなどを教材として、期間内に指定分量の資格試験受験対策の自学自習を積極的に行う。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定のレベル（英語検定試験準 2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達することを目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目 1	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策が充分にできる。	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策ができる。	自学自習を行ったものの、指定分量の資格試験対策の学習ができない。
評価項目 2	資格試験で想定レベルを上回る水準に到達することができる。	資格試験で想定のレベルに到達できる。	資格試験で想定のレベルに到達できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件(告示)」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていない TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、指定のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。
注意点	英語アクティブラーニングⅠの単位を取得した次の年度から、英語アクティブラーニングⅡの履修申請ができる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅡ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験準 2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達すること。想定のレベルに到達した後には、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時にグローバル工学協働教育プログラム (GECEP) ベーシックコース履修中であることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年１月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、１月に入って掲示板を確認すること。 ・学習内容について想定テストを受験する。申請用紙に添えてに提出すること。 ・英語資格試験成績証明書を含め、提出された総合評価が80%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定のレベルに到達する。 ・英語検定試験準 2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語アクティブラーニングⅡ

科目基礎情報

科目番号	0018	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、アクティブラーニング学習向けに開発されたOriginal Handoutsなどを教材として、期間内に指定分量の資格試験受験対策の自学自習を積極的に行う。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定のレベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達することを目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目１	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策が充分にできる。	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策ができる。	自学自習を行ったものの、指定分量の資格試験対策の学習ができない。
評価項目２	資格試験で想定レベルを上回る水準に到達することができる。	資格試験で想定のレベルに到達できる。	資格試験で想定のレベルに到達できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件(告示)」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていない TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。
注意点	英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅠ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達すること。想定のレベルに到達した後には、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年１月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、１月に入って掲示板を確認すること。 ・学習内容について想定テストを受験する。申請用紙に添えてに提出すること。 ・英語資格試験成績証明書を含め、提出された総合評価が80%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定の英語資格試験対策の効率的な学習をすることができる。 ・英語資格試験を受験し、想定のレベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		

		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	グローバルコミュニケーション

科目基礎情報

科目番号	0019	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

This lecture aims to encourage students to express their thoughts related to various social issues as well as to develop listening, speaking, reading, and writing skills needed to discuss in English fluently.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
リスニング能力	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができる。	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、おおむね理解することができる。	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができない。
スピーキング能力	英語ニュースを聞き、内容について的確に話すことができる。	英語ニュースを聞き、内容についておおむね話すことができる。	英語ニュースを聞き、内容について的確に話すことができない。
リーディング能力	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができる。	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問におおむね回答することができる。	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができない。
ライティング能力	英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができる。	英文記事に関連する社会問題についておおむね英作文することができる。	英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	This lecture serves as an practical communicative classes for students to develop English language skills needed to discuss social issues by using audiovisual materials. At the beginning of each class, a special dictation practice is served.
授業の進め方・方法	The classes are basically in person with some dictation and reading comprehension practices, requiring 2/3 attention at weekly assignment tests. The contents and schedule are as shown below.
注意点	Students are required to review for the assigned part of handouts for each class, and to practice short essay writing about current social issues.

学修単位の履修上の注意

事前学習：英単語調べはもちろん、各章の問題を「提出用ノート」に解答しておき、充実させたノートを提出できるようにしておく。
事後展開学習：授業中に作成した「板書用ノート」をみながら、復習し、クイズやテストに備える。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Class Introduction	To understand what and how to learn communicative English
		2週	World News Ⅰ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		3週	World News Ⅱ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		4週	World News Ⅲ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		5週	World News Ⅳ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		6週	World News Ⅴ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		7週	World News Ⅵ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		8週	World News Ⅶ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
	2ndQ	9週	World News Ⅷ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		10週	World News Ⅸ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		11週	World News Ⅹ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		12週	Essay Writing & Discussion	To be assessed each level of understanding
		13週	How to express each point of views about social issues	To understand the typical patterns of essay writing
		14週	Final Assignment Test	To be assessed each level of writing
		15週	Final Essay Writing	To be assessed each level of speaking
		16週	Review	Finalizing & Evaluations

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	Weekly Assignment	Essay Writing	Class Participation	合計
総合評価割合	60	30	10	100
基礎的能力	60	0	10	70
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	30	0	30

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	異文化交流Ⅳ

科目基礎情報

科目番号	0020	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	4
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

１．文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。
２．本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。	異文化理解に対して高い意識をもっている。	異文化理解に対する意識が不十分である。
グローバル・コミュニケーション力	異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	異文化理解に関する３つの構成要素（①態度、②知識、③技能）を理解した上で、海外学生との交流プログラムに参加し、日本文化、学校等の紹介並びに海外学生とのコミュニケーションを通してグルーバル感覚を身につける。
授業の進め方・方法	講義により、「異文化理解」における３つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、実際に海外学生との交流プログラムにおける学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して得られた知見をポスターにまとめる。
注意点	異文化理解に対するオープンマインド、そして実践的な理文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 学習指針 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」,「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習としては、異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習としては、各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

後期	3rdQ	1週	１．準備活動 　異文化理解に関するイマ−ジョンプログラム(リーディングマラソン)に積極的に参加する。 ２．海外からの短期訪問(国際交流プログラム)の受入準備のための活動 　学校・文化紹介用のPPT作成、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、香港・シンガポール学生の受入準備活動を行う。 ３．香港・シンガポール人学生受入活動への参加 ４．報告会開催に向けた準備活動 　全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 ５．国際交流プログラム参加報告会の実施	１．文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 ２．本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	課題提出	英語プレゼンテーション	実践活動	合計
総合評価割合	30	30	40	100
基礎的能力	30	30	40	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	海外協働研修Ⅳ

科目基礎情報

科目番号	0021	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	4
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している国際交流の発表会などが参考となる。		
担当教員	稲田 直久,朴 槿英		

到達目標

・異文化に対する理解を深めるとともに，他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め，自国の文化についても紹介ができる。
・母語以外の外国語によるコミュニケーションを図ることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め、自国の文化についても紹介ができる。	異文化に対する理解がある。 自国の文化について、簡単な外国語で紹介ができる。	異文化に対する理解が不十分で、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。 自国の文化について、紹介できない。
評価項目2	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。	外国語によるコミュニケーションを図ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	海外の教育機関への語学留学，短期・長期の海外研修，国際交流・フォーラム・学会・展示会などのプログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに，グローバルマインドの育成，異文化に対する理解力の向上，外国語学習への意欲を高めることを目的とする。
授業の進め方・方法	本校や本校か認めた海外の機関が実施する国際交流プログラムの他，様々なインターナショナル・プログラムなどにおいて，アクティブな実践活動を行う。 なお，各自がプログラムの活動目標を設定し，積極的な態度で臨む必要がある。
注意点	海外協定校や学校が認める海外機関との国際交流・フォーラム・セミナー・学会・展示会などで活動する事前準備（活動のために必要な外国語運用能力およびグローバルなマインド、国際文化に対する基本的な教養を身に備えるなど、積極的な準備活動が必要である。） 学習指針：研修先の参加者と積極的に交流し，工学・技術の分野だけでなく，文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習としては、外国語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング、スピーキング練習をすること。国際文化に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては、活動を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 学校に認められた期間 2. 実施期間 合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる （研修先の文化に触れ，日本語以外の言語による交流がなされること） 4. 研修先 学校が認めた研修先 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」（所定の様式）をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後，速やかに 「研修等終了報告書」（様式任意） 「プログラム・要項」等，研修内容等が記された書類 「プログラム修了証書」など、関連書類を提出する。 研修報告会（12月頃予定）において研修成果を発表する。	・異文化に対する理解を深めるとともに，他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め，自国の文化についても紹介ができる ・外国語によるコミュニケーションを図ることができる
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	報告書	報告会での発表	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	グローバルチャレンジ

科目基礎情報

科目番号	0022	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	4
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	「CLIL SDGs―Sustainable Development Goals CLIL英語で考えるSDGs―持続可能な開発目標」、三修社、笹島茂他 著		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

1. 国連が提唱する持続可能な開発目標 SDGs の Contents について英語で考えることができる。
2. 地球規模の多様な問題について学び，考え（Cognition），互いの意見を英語で表現（Short Speech & Presentation）できる。特別講演および オールイングリッシュ講義を通じて、国際社会を舞台に活躍できるグローバルマインドの育成や実践的英語コミュニケーションスキルを身に着けることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
グローバルコミュニケーションスキル	生英語を聞き取り、内容を良く理解することができる。	生英語を聞き取り、内容を概ね理解することができる。	生英語を聞き取れず、内容を理解することができない。
ディスカッションスキル	国際問題について高い意識をもつとともに、その内容について深くディスカッションすることができる。	国際問題について高い意識をもつとともに、その内容について概ねディスカッションすることができる。	国際問題に関する意識が不十分であり、その内容についてディスカッションすることができない。
ショートスピーチ&プレゼンテーションスキル	流暢な英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできる。	分かる程度の英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできる。	英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	CLIL(Content and Language Integrated Learning）とは、伝えたい内容と言語教育を融合した学習法である。SDGsについて、オールイングリッシュ講義を通じて学び、考え、英語で発表を行うことで、国際舞台で活躍できる実践的英語コミュニケーションスキル、地球規模の問題意識およびグローバルマインドを養うことができる。なお、グローバル教育センターが主催する特別イベント（特別講演会、海外協働研修研修報告会など）に必ず参加し、グローバルエンジニアとして必要な知識とスキルを身に着ける。
授業の進め方・方法	SDGs の内容を英語で理解し、考え、コミュニケーションできるよう、オールイングリッシュ講義を行う。各講義、特別講演会、海外協働研修報告会の他、英語コミュニケーション集中講義等へ積極的に参加し、学習内容についてアンケートおよび英文レポートを作成し、英語でショートスピーチやプレゼンテーションを行う。
注意点	関連科目：英語科目のみならず、世界の現代社会全般について幅広い関心を持つことが求められる。 学習指針：基礎的な英語コミュニケーション能力と、グローバル社会の課題に関する学ぶ積極的な学習態度が必要となる。 地球規模の課題に対する文献を事前調査するなど、積極的な取り組みが求められる。 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」,「話す」練習を随時行うこと。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：オールイングリッシュ講義やイベントに参加するための基礎知識を事前に習得すること。英語コミュニケーションの練習、発音練習を随時行うこと。 事後展開学習：各講演やイベントを通じて学んだ内容を将来の活動に積極的に活用すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	集中講義（以下のイベント内容参照） イベントの開催情報についてはGECEP Teams掲示板に随時掲載されるので、履修学生は定期的に掲示板を確認すること。 単位認定に関して グローバル教育センター主催イベントへの参加とコメントカードの提出、および報告書の提出をもって単位認定を行う。	各イベントに伴う内容を理解し、実用的な英語表現の練習および英文レポートを作成することができる。 英語による講演内容を概ね理解し、自身の考えや質問を英語で表現することを学ぶことができる。 現代社会の課題について幅広い事前調査をすることができる。
		2週	Challenge 1 Guidance / Industry, Innovation and Infrastructure	産業と技術革新の基盤について学び、考え、質問に答えることができる。
		3週	Challenge 2 Sustainable Cities and Communities	住み続けられるまちづくりについて学び、考え、質問に答えることができる。
		4週	Challenge 3 Responsible Consumption and Production	つくる責任、つかう責任について学び、考え、質問に答えることができる。
		5週	Challenge 4 Climate Action	気候変動に具体的な対策について学び、考え、質問に答えることができる。
		6週	Challenge 5 Life below Water / Life on Land	海の豊かさを守ること・陸の豊かさも守ることについて学び、考え、質問に答えることができる。
		7週	Challenge 6 Peace, Justice and Strong Institutions	平和と公正を全ての人に与えることについて学び、考え、質問に答えることができる。
		8週	Challenge 7 Partnerships for the Goals	パートナーシップで目標を達成することについて、考え、質問に答えることができる。
	2ndQ	9週	Intensive English Communication Training ①	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。

		10週	オンライン国際交流プログラム（ウェビナー）	海外学術交流校とのオンライン国際交流活動に参加することができる。
		11週	グローバルチャレンジイベント特別講演会	グローバルな活動を通じて学んだ知識と経験を共有することができる。
		12週	国際プログラム参加成果報告会	特別講演会に参加し、アンケートおよびコメントカードを作成することができる。
		13週	Intensive English Communication Training ②	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。
		14週	Intensive English Communication Training ③	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。
		15週	STEAM English 特別イベント	STEAMに特化した英語講演を通じてSTEAMに関する理解を高めることができる。
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	チャレンジレポート		合計
総合評価割合	100	0	100
基礎的能力	100	0	100
総合的能力	0	0	0

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語アクティブラーニングⅡ

科目基礎情報

科目番号	0024	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、アクティブラーニング学習向けに開発されたOriginal Handoutsなどを教材として、期間内に指定分量の資格試験受験対策の自学自習を積極的に行う。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定のレベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達することを目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目 1	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策が充分にできる。	計画的に自学自習を行い、指定分量の資格試験受験対策ができる。	自学自習を行ったものの、指定分量の資格試験対策の学習ができない。
評価項目 2	資格試験で想定レベルを上回る水準に到達することができる。	資格試験で想定のレベルに到達できる。	資格試験で想定のレベルに到達できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件(告示)」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていない TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。
注意点	英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅠ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達すること。想定のレベルに到達した後には、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年１月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、１月に入って掲示板を確認すること。 ・学習内容について想定テストを受験する。申請用紙に添えてに提出すること。 ・英語資格試験成績証明書を含め、提出された総合評価が80%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定の英語資格試験対策の効率的な学習をすることができる。 ・英語資格試験を受験し、想定のレベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		

		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	グローバルコミュニケーション

科目基礎情報

科目番号	0025	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

This lecture aims to encourage students to express their thoughts related to various social issues as well as to develop listening, speaking, reading, and writing skills needed to discuss in English fluently.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
リスニング能力	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができる。	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、おおむね理解することができる。	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができない。
スピーキング能力	英語ニュースを聞き、内容について的確に話すことができる。	英語ニュースを聞き、内容についておおむね話すことができる。	英語ニュースを聞き、内容について的確に話すことができない。
リーディング能力	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができる。	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問におおむね回答することができる。	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができない。
ライティング能力	英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができる。	英文記事に関連する社会問題についておおむね英作文することができる。	英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	This lecture serves as an practical communicative classes for students to develop English language skills needed to discuss social issues by using audiovisual materials. At the beginning of each class, a special dictation practice is served.
授業の進め方・方法	The classes are basically in person with some dictation and reading comprehension practices, requiring 2/3 attention at weekly assignment tests. The contents and schedule are as shown below.
注意点	Students are required to review for the assigned part of handouts for each class, and to practice short essay writing about current social issues.

学修単位の履修上の注意

事前学習：英単語調べはもちろん、各章の問題を「提出用ノート」に解答しておき、充実させたノートを提出できるようにしておく。
事後展開学習：授業中に作成した「板書用ノート」をみながら、復習し、クイズやテストに備える。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Class Introduction	To understand what and how to learn communicative English
		2週	World News Ⅰ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		3週	World News Ⅱ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		4週	World News Ⅲ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		5週	World News Ⅳ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		6週	World News Ⅴ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		7週	World News Ⅵ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		8週	World News Ⅶ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
	2ndQ	9週	World News Ⅷ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		10週	World News Ⅸ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		11週	World News Ⅹ, Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues
		12週	Essay Writing & Discussion	To be assessed each level of understanding
		13週	How to express each point of views about social issues	To understand the typical patterns of essay writing
		14週	Final Assignment Test	To be assessed each level of writing
		15週	Final Essay Writing	To be assessed each level of speaking
		16週	Review	Finalizing & Evaluations

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	Weekly Assignment	Essay Writing	Class Participation	合計
総合評価割合	60	30	10	100
基礎的能力	60	0	10	70
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	30	0	30

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	異文化交流Ⅴ

科目基礎情報

科目番号	0026	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	5
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	Original Handouts		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

１．文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。
２．本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。	異文化理解に対して高い意識をもっている。	異文化理解に対する意識が不十分である。
グローバル・コミュニケーション力	異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	異文化理解に関する３つの構成要素（①態度、②知識、③技能）を理解した上で、海外学生との交流プログラムに参加し、日本文化、学校等の紹介並びに海外学生とのコミュニケーションを通してグルーバル感覚を身につける。
授業の進め方・方法	講義により、「異文化理解」における３つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、実際に海外学生との交流プログラムにおける学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して得られた知見をポスターにまとめる。
注意点	異文化理解に対するオープンマインド、そして実践的な理文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 学習指針 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」,「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習としては、異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習としては、各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

後期	3rdQ	1週	１．準備活動 　異文化理解に関するイマ−ジョンプログラム(リーディングマラソン)に積極的に参加する。 ２．海外からの短期訪問(国際交流プログラム)の受入準備のための活動 　学校・文化紹介用のPPT作成、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、香港・シンガポール学生の受入準備活動を行う。 ３．香港・シンガポール人学生受入活動への参加 ４．報告会開催に向けた準備活動 　全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 ５．国際交流プログラム参加報告会の実施	１．文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 ２．本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	課題提出	英語プレゼンテーション	実践活動	合計
総合評価割合	30	30	40	100
基礎的能力	30	30	40	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	海外協働研修Ⅴ

科目基礎情報

科目番号	0027	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	5
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している国際交流の発表会などが参考となる。		
担当教員	稲田 直久,朴 槿英		

到達目標

・異文化に対する理解を深めるとともに，他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め，自国の文化についても紹介ができる。
・母語以外の外国語によるコミュニケーションを図ることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め、自国の文化についても紹介ができる。	異文化に対する理解がある。 自国の文化について、簡単な外国語で紹介ができる。	異文化に対する理解が不十分で、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。 自国の文化について、紹介できない。
評価項目2	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。	外国語によるコミュニケーションを図ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	海外の教育機関への語学留学，短期・長期の海外研修，国際交流・フォーラム・学会・展示会などのプログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに，グローバルマインドの育成，異文化に対する理解力の向上，外国語学習への意欲を高めることを目的とする。
授業の進め方・方法	本校や本校か認めた海外の機関が実施する国際交流プログラムの他，様々なインターナショナル・プログラムなどにおいて，アクティブな実践活動を行う。 なお，各自がプログラムの活動目標を設定し，積極的な態度で臨む必要がある。
注意点	海外協定校や学校が認める海外機関との国際交流・フォーラム・セミナー・学会・展示会などで活動する事前準備（活動のために必要な外国語運用能力およびグローバルなマインド、国際文化に対する基本的な教養を身に備えるなど、積極的な準備活動が必要である。） 学習指針：研修先の参加者と積極的に交流し，工学・技術の分野だけでなく，文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習としては、外国語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング、スピーキング練習をすること。国際文化に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては、活動を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 学校に認められた期間 2. 実施期間 合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる （研修先の文化に触れ，日本語以外の言語による交流がなされること） 4. 研修先 学校が認めた研修先 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」（所定の様式）をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後，速やかに 「研修等終了報告書」（様式任意） 「プログラム・要項」等，研修内容等が記された書類 「プログラム修了証書」など、関連書類を提出する。 研修報告会（12月頃予定）において研修成果を発表する。	・異文化に対する理解を深めるとともに，他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め，自国の文化についても紹介ができる ・外国語によるコミュニケーションを図ることができる
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	報告書	報告会での発表	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	グローバルチャレンジ

科目基礎情報

科目番号	0028	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	5
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	「CLIL SDGs―Sustainable Development Goals CLIL英語で考えるSDGs―持続可能な開発目標」、三修社、笹島茂他 著		
担当教員	朴 槿英		

到達目標

1. 国連が提唱する持続可能な開発目標 SDGs の Contents について英語で考えることができる。
2. 地球規模の多様な問題について学び，考え（Cognition），互いの意見を英語で表現（Short Speech & Presentation）できる。特別講演および オールイングリッシュ講義を通じて、国際社会を舞台に活躍できるグローバルマインドの育成や実践的英語コミュニケーションスキルを身に着けることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
グローバルコミュニケーションスキル	生英語を聞き取り、内容を良く理解することができる。	生英語を聞き取り、内容を概ね理解することができる。	生英語を聞き取れず、内容を理解することができない。
ディスカッションスキル	国際問題について高い意識をもつとともに、その内容について深くディスカッションすることができる。	国際問題について高い意識をもつとともに、その内容について概ねディスカッションすることができる。	国際問題に関する意識が不十分であり、その内容についてディスカッションすることができない。
ショートスピーチ&プレゼンテーションスキル	流暢な英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできる。	分かる程度の英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできる。	英語で、ショートスピーチまたはプレゼンテーションできない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	CLIL(Content and Language Integrated Learning）とは、伝えたい内容と言語教育を融合した学習法である。SDGsについて、オールイングリッシュ講義を通じて学び、考え、英語で発表を行うことで、国際舞台で活躍できる実践的英語コミュニケーションスキル、地球規模の問題意識およびグローバルマインドを養うことができる。なお、グローバル教育センターが主催する特別イベント（特別講演会、海外協働研修研修報告会など）に必ず参加し、グローバルエンジニアとして必要な知識とスキルを身に着ける。
授業の進め方・方法	SDGs の内容を英語で理解し、考え、コミュニケーションできるよう、オールイングリッシュ講義を行う。各講義、特別講演会、海外協働研修報告会の他、英語コミュニケーション集中講義等へ積極的に参加し、学習内容についてアンケートおよび英文レポートを作成し、英語でショートスピーチやプレゼンテーションを行う。
注意点	関連科目：英語科目のみならず、世界の現代社会全般について幅広い関心を持つことが求められる。 学習指針：基礎的な英語コミュニケーション能力と、グローバル社会の課題に関する学ぶ積極的な学習態度が必要となる。 地球規模の課題に対する文献を事前調査するなど、積極的な取り組みが求められる。 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」,「話す」練習を随時行うこと。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：オールイングリッシュ講義やイベントに参加するための基礎知識を事前に習得すること。英語コミュニケーションの練習、発音練習を随時行うこと。 事後展開学習：各講演やイベントを通じて学んだ内容を将来の活動に積極的に活用すること。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	集中講義（以下のイベント内容参照） イベントの開催情報についてはGECEP Teams掲示板に随時掲載されるので、履修学生は定期的に掲示板を確認すること。 単位認定に関して グローバル教育センター主催イベントへの参加とコメントカードの提出、および報告書の提出をもって単位認定を行う。	各イベントに伴う内容を理解し、実用的な英語表現の練習および英文レポートを作成することができる。 英語による講演内容を概ね理解し、自身の考えや質問を英語で表現することを学ぶことができる。 現代社会の課題について幅広い事前調査をすることができる。
		2週	Challenge 1 Guidance / Industry, Innovation and Infrastructure	産業と技術革新の基盤について学び、考え、質問に答えることができる。
		3週	Challenge 2 Sustainable Cities and Communities	住み続けられるまちづくりについて学び、考え、質問に答えることができる。
		4週	Challenge 3 Responsible Consumption and Production	つくる責任、つかう責任について学び、考え、質問に答えることができる。
		5週	Challenge 4 Climate Action	気候変動に具体的な対策について学び、考え、質問に答えることができる。
		6週	Challenge 5 Life below Water / Life on Land	海の豊かさを守ること・陸の豊かさも守ることについて学び、考え、質問に答えることができる。
		7週	Challenge 6 Peace, Justice and Strong Institutions	平和と公正を全ての人に与えることについて学び、考え、質問に答えることができる。
		8週	Challenge 7 Partnerships for the Goals	パートナーシップで目標を達成することについて、考え、質問に答えることができる。
	2ndQ	9週	Intensive English Communication Training ①	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。

		10週	オンライン国際交流プログラム（ウェビナー）	海外学術交流校とのオンライン国際交流活動に参加することができる。
		11週	グローバルチャレンジイベント特別講演会	グローバルな活動を通じて学んだ知識と経験を共有することができる。
		12週	国際プログラム参加成果報告会	特別講演会に参加し、アンケートおよびコメントカードを作成することができる。
		13週	Intensive English Communication Training ②	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。
		14週	Intensive English Communication Training ③	英語集中訓練を通じて実践的コミュニケーションスキルを磨くことができる。
		15週	STEAM English 特別イベント	STEAMに特化した英語講演を通じてSTEAMに関する理解を高めることができる。
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	チャレンジレポート		合計
総合評価割合	100	0	100
基礎的能力	100	0	100
総合的能力	0	0	0